

こんにちは、 『はちのへバス便り』です。

今回は、「モビセン」で取り組んでいることを
ご紹介します。



Web 版

はちのへバス便り

発行：八戸中心街ターミナルモビリティセンター

お気軽に
お声がけ
ください！

モビセンのお客さま

「八戸中心街ターミナルモビリティセンター（通称・モビセン）」をこれまでにご利用いただいた方は、昨年の10月にオープン以来、1771名（一日約13名）に達しました（2月23日時点）。

主に、バスの路線・時刻などの案内を行っています。一口に「バスの案内」と言っても、求められる情報は本当に様々です。観光客の方もいらつしやるので、おススメのスポットや、仙台・東京などへの高速バスの情報を聞かれることもあり、『もっと勉強せねば！』『よりわかりやすく伝える方法を考えねば！』と意識を新たにする毎日です。

スタッフ一人ひとりが日々成長過程ですが、これからも、是非お気軽にお立ち寄りください！

“アテンダント”の手応え

バス停やバスの車内で「バスの乗降支援（お手伝い）・バスの時刻、路線の案内」を行う「アテンダント」。1月17日から取り組みを始め、これまでに327人の方に、お手伝いや案内などをさせていただきました（2月18日時点）。

施設 実場

南部バス河原木団地線の車内、
中心街ターミナル3番乗り場
（中央通り）のバス停

モビセンQ&A

Q 八戸中心街ターミナルとは？

A 中心街にある5ヵ所のバス停をまとめた呼び方です。
乗り場の番号は、三日町＝①番、八日町＝②番、中央通り＝③番、朔日町＝④番、六日町＝⑤番です。

Q モビリティセンターってなに？

A 主に、公共交通の案内（バスの路線や運賃、時間などバスに関する情報）をする所をいいます。

Q どこにあるの？

A 八戸中心街ターミナル3番乗り場（中央通り）の向かいです。
※バス乗り場までは、横断歩道を渡りましょう！

Q 料金は？

A バスに関するご案内、ご相談はもちろん無料です。
※回数券の販売のみ、代金をいただきます。

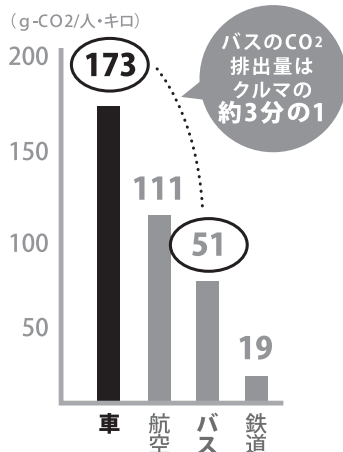
主なお手伝いの内容

- 乗り降りのときに、荷物をもつ・肩をかす
- 降車ボタンを押す
- 目的地（施設など）の最寄りのバス停を伝える

顔見知りになった方と交わす挨拶。中には、昔車掌として勤めていた方からも「これからもがんばってね」と励ましの声もいただきました。そんな何気ないやりとりの中に、大きなやりがいを感じながら取り組んでいます。

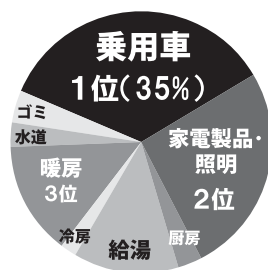


“移動”と環境問題の関わり



参照：2009年版運輸・交通と環境
(交通エコロジー・モビリティ財団)

乗り物別CO₂排出量
(1人1kmを運んだとき)



日常生活で排出されるCO₂

移動と二酸化炭素

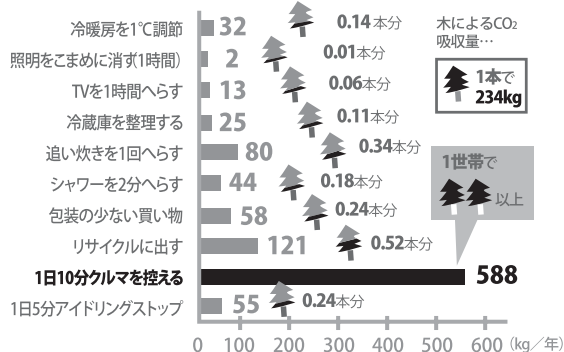
地球温暖化の主な原因とされているCO₂。電気を使う・暖房をつける・料理をするなど、日常生活のいろいろな場面で排出されていますが、中でもクルマを利用したときに多く発生します。

そして、利用する交通手段ごとにCO₂の排出量を比べてみると、クルマが最も多く、バスはその3分の1程度であることが分かります。

クルマを少し控えると…

日々の生活の中で、二酸化炭素削減につながる工夫はたくさんありますが、中でも「クルマの利用を1日10分控える」ことで抜群の削減効果を得られます。

「毎日10分」というより、3日で30分、1週間で1時間10分、1ヶ月で5時間ぐらいたとえてもいいかもしれません。たまにはクルマを置いて徒歩や自転車で行ってみる、たまにはのんびりバスでお出かけしてみるなどの、ちょっとした「気分転換」ですぐにでも達成できそうな気がしますませんか？



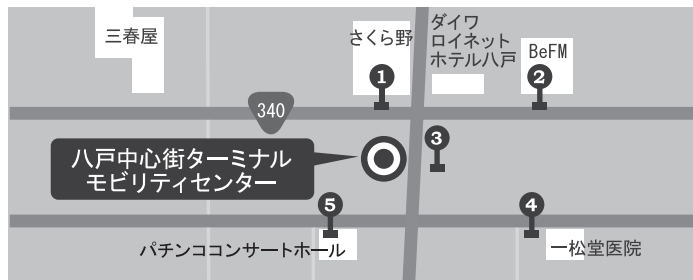
出典：太田裕之、藤井聡：環境配慮行動における客観的CO₂排出削減量
事実情報提供の効果に関する実験研究（土木学会論文集、2007）

エコ活動により減らせるCO₂の量

バスという日常

どうしても自動車で移動しなければ生活できない地域もちろんあります。ただ、バスを「使えなくはない」場所にお住まいの方も多いと思うのです。

あなたの日常に「クルマの利用を少しでも控える」という工夫を加えること、あなたの日常の移動手段の一つに「バス」を加えること、この機会には是非ともお考えいただきたいのです。



- 運営主体：社団法人北海道開発技術センター
- 住所：八戸市大字三日町14-2 青山テラス(旧笹川ビル) 1階
- 電話：0178・20・9150 ●FAX：0178・45・3280
- 営業時間：9:00～18:00(土日祝日は17:00まで)※定休日なし